

# 建設労働

〒556-0015  
大阪市浪速区敷津西  
2-7-17  
大阪建設労働組合  
発行責任  
執行委員長 谷内 邦久  
編 集 教 宣 部  
一部 20円 干別

大建労本部  
TEL 06-6632-2875  
FAX 06-6643-5307  
求職 06-6647-2587  
daikenro@hera.eonet.ne.jp  
大建国保本部  
TEL 06-6631-7112

## 全支部目標達成を めざそう



目標達成に向けてガンバロー!

### 仲間を増やす組織拡大月間 継続は力なり

#### 継続は力なり

九月一日(月)大建労本部で支部長・書記長合同会議終了後に拡大出陣式を十九支部三十四人で開催しました。  
冒頭、今年度から新たに本部組織正副の副部長となる大東支部・吉川副部長、堺支部・奥野副部長からそれぞれ挨拶がありました。  
続いて、谷内委員長より「対面行動を拡大の中心に据え、支部のレクリエーションや適用除外の周知をしっかりと行い、拡大に繋げてください。ポスターや横断幕の活用。拡大Tシャツを着て一体感を出して取り組むことが大切です。」  
各支部からの決意表明を受けて、杉山組織部長より「拡大といえば組合員を増やすことに意識が向けられがちですが、訪問をする中で組合員が組合員であることを自覚し、帰属意識を高めてもらうことも大切です。拡大行動では、すぐに数字として表れないこともありますが、継続は力なりです。」  
本部組織部においては、対面行動を推奨していますが、暑いので熱中症対策を行い、無理のないよう頑張ってください。最後に全支部の拡大目標達成に向けてガンバロー三唱で士気を高めました。



吉川副部長(写真左)、奥野副部長(写真右)

※秋の拡大月間において、新加入者へ配布しているクオカードですが、ファミリーマートでは、十二月二十二日までしか使用出来ませんので、ご注意ください。

### 税金・労災など未加入者へPRを

春の拡大月間に引き続き、九月一日からは秋の拡大月間がスタート。身近な新入職者や税金申告・労災保険加入などで悩んでいる組合未加入者を呼び支度まで紹介していただきたい。ご協力をお願いします。

### 目標達成に向けて ガンバロー



ガンバロー!ガンバロー!ガンバロー!

【大建労大東支部】  
九月四日(木)大東支部の常会を開催しました。本部から、杉山組織部長と書記二人が参加。本部執行委員会の報告を山口社保対部長が行いました。続いて、九月から開始している秋の拡大月間について、組合の認知度向上が重要であり大東支部では、九月の各土曜日の夕方にコーナンPROでの宣伝行動を行うことが決定しました。最後に秋の拡大月間目標達成に向けてガンバロー三唱を全員で力強く行い閉会しました。

### あなたの一枚が 国保予算獲得に繋がる

#### 国保ハガキ要請に協力を

【社会保障対策部発】  
私たちが加入し運営する大阪建設国民健康保険料と国が交付する国庫補助金で成り立っています。組合(大建国保)は、組合員一人一人の皆さんを守るため、予算の概算要求を確保するために、国保ハガキを要請しています。

要請ハガキ 厚労省 大臣官房審議官 殿	要請ハガキ 厚労省 国保課長補佐 殿
要請ハガキ 厚労省 保険局長 殿	要請ハガキ 厚労省 国保課長 殿

要請先①厚労省4名 表面①

要請ハガキ 財務省 主計局次長 殿	要請ハガキ 財務省 主計局主査 殿
要請ハガキ 財務省 主計局長 殿	要請ハガキ 財務省 主計局主計官 殿

要請先②財務省4名 表面②

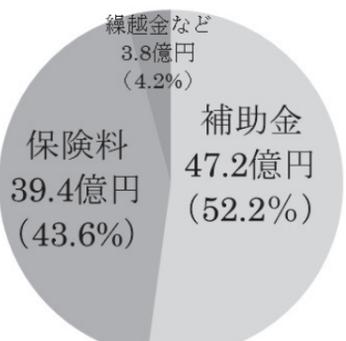
氏名 住所	氏名 住所	氏名 住所	氏名 住所

裏面(表面①②共通)

私は大阪府で△△△△をしています。  
建設国保はのちと健康を守る大切な制度です。  
私たちの建設国保への補助金は、現行水準確保拡充してください。

住所 大阪市浪速区敷津西2丁目7番17号  
氏名 大建 太郎

裏面(要請文例)



### 要請文例

「私は大阪府で△△△△に就任しています。建設国保はのちと健康を守る大切な制度です。私たちの建設国保への補助金は、現行水準確保、拡充してください。」

### ■注意事項

・今回より官製ハガキではなく、本部で用意したハガキサイズの用紙を使用してください。用紙は各支部にありますので、記入出来たら支部に持参してください。  
・切手の貼付は不要です。表面の宛名は、印字されていますが、裏面の要請文はご自身の熱意を伝えるために必ず手書きで記入を。また、「ご自身の住所・氏名」の記入をお願いします。  
・家族の方はご自身の職業を記入せず「私の夫は大阪府で電工をしています」と組合員本人が建設国保に加入していることが分かるように。

### VOICE

大阪で3回目となる、前進座公演「本清張朗読劇」の企画、運営に関わった。以前、「芝居の類は全然ダメなんですよ」と言っていたKちゃんが公演後突然「すごく感動しました、あのイケメンの俳優さんが村のおじいさんの役や刑事役等とどんどんこなして」と。「今日、そんな感動するところなかったやろ」と茶化すも「いや、よかったですよ」を繰り返す。私はしめしめ、はまった朗読劇に「とほくそ笑んだ」朗読劇は不思議なもので、芝居と大きな差異があると私は考える。芝居はこうしても演者の姿、所作、大道具や小道具などの視覚刺激が強くなってしまいが、それが自らの感覚に合致すれば良いが、少しでも違和感があれば気になって集中できなくなることがある▼その点、朗読劇はほぼ動きのない演者が次々と登場人物を演じるため、映像としては観客の脳内でそれぞれの像が結ばれ、違和感や自己完結的に処理される▼故に声が重要な。毎回、朗読劇の演者の声の凄さには脱帽。今回の演目「砂の器」には7人の女性が登場するが、演じるのは浜名実貴さん唯一一人。若き田所の婚約者から浪速区役所のベテラン職員まで年齢層もばらばらだ。ナレーションや子どもの頃の田所まで含め、十役十声色を成し遂げた。さあ、皆さんも朗読劇の沼にハマってみませんか。

